

未来へ！師木野『しあわせ総会』の取組

岩国市立柱野小学校

1 はじめに

学校では「新入生が入ってこない」「全校児童数は12人」、地域では「人が少なくなった」「お年寄りが増えた」など、学校や地域の課題は、明確である。そう思っている、どう動いてよいかわからない。その突破策として、子どもと保護者、地域住民が集う熟議を開催し、今できることを考えながら、さらなる学校や地域の活性化につながる本活動を実施することとした。

2 活動の概要

(1) 熟議の開催 (4月)

子どもと保護者、地域の方々と一緒に、SWOT分析による学校や地域の「強さ」「弱み」「できること」「将来」の4つの観点で、意見を出し合った。



<熟議の様子>

<p>強み (よいところ・のこしたい)</p> <p>きれいな川、花 ホテルやかじか 生き物がいっぱい 豊かな自然 昔から残る物 (千体仏など) 人がやさしい まちに近い 大きな道路がある</p> <p>なかよし 学校が楽しい 地域の人とふれあえる 柱野太鼓や一輪車 みんななかよし など</p> <p>「こんなことできるよ！」</p> <p>みんななかよしになれる 一人一人の名前がわかる 山や川などの自然、学校で遊ぶ 柱野太鼓や一輪車でがんばる姿を見せる あいさつでみんな元気になる 地域の人とふれあう 動植物と遊ぶ、大切にする など</p>	<p>弱み (なやみ・あったらいいな)</p> <p>空き家が多い 子どもが少ない、高齢化が進む スーパーやアパート レストランや喫茶店 公園や遊園地、動物園、図書館 クリニックや病院 水道 温泉や小さな宿 スポーツができる場所 人も動物も遊べる場所 など</p> <p>「これから心配だな？」</p> <p>人の数がどんどん減る 地域の人の数も減ってくる 地域の行事がなくなるかも？ 川などの自然がよごれそう 柱野の元気がなくなる？ など</p>
---	--

<話し合いの結果>

熟議をとおして、学校や地域の課題をあらためて共有できた。また、なかよしや豊かな自然など、今までのよさを再確認できた。

(2) 児童による提案

①全校児童会「自分たちにできること」協議 (5月)

4月の熟議を受けて、全校児童会を開き、自分たちにできることや続けたいこと、大切にしたいことなどを話し合った。

結果、地域にないものをつくるのではなく、地域にあるもの(自然や文化・歴史)を活かし楽しんでいく、そして大切にしていこうと考えに至った。



<児童会の様子>

②児童提案「こんな師木野がいい」→「そのためにできること」(5月)

学校運営協議会や参観日に、全校児童会で話し合ったことを、6年生が発表をした。

提案では、ふるさとのよさを発見、活用、継承の考え、未来のふるさとへの思いやふるさとに働きかけようとする姿勢が見られた。また、自分たちの元気な姿やあいさつ、地域行事の参加で、地域に元気を届けるという提案もあった。



<子どもたちの意見内容(パワーポイント抜粋)>

学校運営協議会での提案では、地域の委員さんから、「転入生が行きたいという学校を、自分たちの手でつくっていかないといけないね」ということばをいただき、子どもたちのやる気に火をつけた。

(3) 主な活動の実際

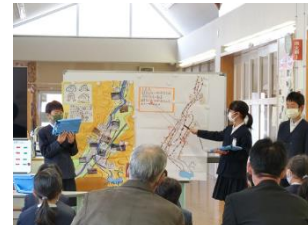
①『安全・安心マップ』の作成・配付

子どもたちが学んだことや地域の方から聞いたことをもとに、マップを作成した。その後、参観日にはマップ発表、そして後日、地域住民に各戸配付をした。

マップには、避難経路も記されていて、地域の方々の安全を思う気持ちが表れていた。



<児童提案の様子(参観日)>



<マップ発表の様子(参観日)>

②『柱野ふれあいスポーツフェスタ』の開催

<プログラム>

○児童発表

－CSプレゼンツ2021

－『柱野太鼓』披露

○ふれあい活動－自作ゲーム他

今回は、地域の元気創出に関する



<CS発表>



<柱野太鼓発表>

提案や学習発表、ふれあい活動をとおして、地域への感謝を伝えた。子どもの笑顔が、みんなを幸せな気分に変えた。

③その他の活動

教育活動では、自然や文化を活かした『まちじゅう動物園マップ』つくりの他、『柱野カルタ』作成と活用、錦帯橋での『子どもガイド』などを実施した。



<児童手作りポウリング>

3 おわりに

(1) 成果

- 地域の現状や課題を話し合うことで、ふるさとを知る機会となった。また、地域と共有することで、課題解決に向けた一体感が生まれた。
- ふるさとの未来を考えるうえで、残したい大切にしたいものを再発見し、今ある地域資源で楽しむ思考が生まれた。そして、「ふるさとで知るもの感じたことが、ふるさとのよさ変わる」という意識変容を見た。
- 子どもたちが、CSの学校支援を知り、できることを考える過程で、子どもの声でCSを語り、CSを活かす取組へと進化していった。また、自分たちの手で、よい学校をつくらうとする主体性が生まれた。
- 学校や地域の課題解決に向け、子どもたちが動き出すことで、保護者や地域も同じ目的のもとに支援や活動をするように変わってきた。 <柱野移住HPトップ画面(保護者作成)>



(2) 課題

家庭や地域を巻き込んだふれあい教育活動や総会(熟議)を継続的に実施し、今後も、学校や地域の元気創出のため、学校を核とした地域づくりや人づくりを先導したい。